

2013 年 7 月 12 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

フィリピン国 洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2013 年 5 月 31 日（金）14:01～17:25
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：2 階 212 会議室）
- ・ ワーキンググループ委員：作本委員、清水谷委員、谷本委員、米田委員
- ・ 議題：「フィリピン国洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）（協力準備調査（有償））」スコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：フィリピン国洪水リスク管理事業（カガヤン・デ・オロ川）（協力準備調査（有償））スコーピング案事前配布資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010 年 4 月）

全体会合（第 37 回委員会）

- ・ 日時：2013 年 7 月 5 日（金）14:30～16:38
- ・ 場所：JICA 本部（会議室：229 会議室）

上記の会合に加え、メール審議により助言を確定した。

助言

全体事項

1. フィリピンの主要 18 河川に関わる洪水対策事業において、本事業の位置づけを明確にすること。
2. M/P においては、流域の洪水を防止し環境への悪影響を回避するため、上流域の流出抑制、植林事業及び自然公園の維持確保を併せて検討すること。
3. 本事業の実施によって、内水氾濫がさらに悪化することがないように十分な検討を行うこと。

代替案の検討

4. 設計洪水の再現期間の決定にあたっては、今後行われる調査及び結果の分析に基づいて適正な水準の再現期間に定めること。
5. 個々の代替案における影響評価を行った上で、代替案の組合せの検討を行い、組合せの影響評価の根拠が分かるように報告書(DFR)を記載すること。
6. 優先プロジェクト・最適案の抽出に関しては、評価基準を明確にした上で総合的に評価すること。

社会配慮

7. 堤外地における用地取得及び住民移転については今後の調査結果に基づいて必要に応じて十分な緩和策を検討すること。移転に際しては balanガイコミュニティが分断されないよう配慮すること。
8. 堤外地における非正規住民や非正規土地利用者の流入防止等を含めて、供用後の地域住民主体の非構造物対策を検討すること。
9. ウルガ洞窟を含む歴史的遺跡の有無については、現地の考古学者等を含めて十分な事前調査を行うこと。

スコーピングマトリックス

10. スコーピングについて以下の点を含めて評価を再検討すること。
 - (1) C-の評価の基準については、「影響の有無及びその程度が不明である」との表現に改めること。なお、組合せの影響を評価する場合は、悪影響のより高い方に合わせること。
 - (2) 影響の程度が不明な C-の評価項目については、十分に調査を行い、最終評価結果を報告書(DFR)に記載すること。
 - (3) 水象の変化に伴い生じる、沿岸部のサンゴ礁やマングローブ林、さらに流域の動植物などの生態系への影響について調査を行い、調査結果を踏まえて影響を評価し緩和策を検討すること。

以 上